

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触 問い：スライムに触れてみよう	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	0歳児クラス（ひよこ）	人数	6名

<テーマ設定理由>

当園では、豊かな感性を育むために乳児期から様々な素材にふれる感触遊びに力を入れている。0歳児クラスでも幅広く感触遊びを行っているため、より親しみのある材料をそろえ興味や関心を広げていくきっかけとなるようテーマ設定をした。
今回の問いの理由：様々な物に触れて感触を確かめながら遊ぶ姿が見られるので、スライムを使用しての感触あそびをしてみたいと考えた。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年6月～2026年3月
【今回の活動】2025年6月～2025年7月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【感触の違う柔らかいスライムと硬めのスライムを2種類する】

- ・洗濯のりと水、ホウ砂水を混ぜるところから子ども達に見せることで興味を持てるようにする。
- ・スライムを用意して、感触を確かめる。
- ・活動時間は子どもの様子を見ながら調整する。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・子ども達の前でスライムを作って見せる。（材料を混ぜながら変化を楽しめるように言葉がけをする。）
- ・実際にスライムに触ってみる。（子ども達の反応を見ながら必要な言葉がけをする。）
- ・途中から感触もの違うスライムも用意し、触り比べができるようにする。（最初は保育者から感触が違うことは伝えずに様子を見る）

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・スライムができる過程を見せることで“なんだこれは？”という表情で様子を見ていた。中には見慣れないものに警戒心を持っている子どももいた。

・保育者がのびて見せるとのびて落ちてくる様子を目で追っていた。

・スライムに触って遊べるように設定をすると最初は抵抗を示す子どもが多かったため、チャック付きの袋に入れて感触を楽しめるようにすると触れて感触を確かめる姿が見られた。（ゆびでつついたり、手のひらで押してみたり、袋ごと挿んでみたりなど）

・様子を見ながら直接触れて楽しめそうな子どもにはスライムを直接触って遊べるようにする。それぞれに触ったり挿んだりちぎったりして遊んでいた。

・途中から柔らかめのスライムも用意し、触れて遊べるようにすると交互に触れているうちに感触の違いに気づく表情した子どもがいた。そのまま様子を見ると、その後も感触の違いを確かめるように交互に触っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・スライムを作るところから見せたことで、興味を持つことができたように思う。
- ・最初はジップバックに入れた状態で触るところから始め、様子を見ながら直に触れるよう段階を踏んだことで個々のペースで感触遊びを楽しむことができた。
- ・感触遊びをしている子ども達の表情などを注意深く見ていくことで言葉でなくても気付きの瞬間を目撃することができた。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
問い：新聞紙と新聞紙粘土の感触を楽しむ①	クラス	0歳児クラス（ひよこ）	人数	6名

<テーマ設定理由>

今回の問いの理由：以前はスライムでの感触遊びを楽しんだので、今回はまた違う感触に触れて遊びたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年6月～2026年3月
【今回の活動】2025年8月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備物】
・新聞紙・ちぎった新聞紙を入れるたらい・水・製作用タオル（汚れた際に拭くために使う）
【環境】
・玩具などは片づけ、室内に広いスペースを確保する。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・新聞紙に触れて遊ぶ（ちぎる、丸める、投げるなど）
- ・ちぎった新聞紙をたらいに集め、水を加えてこねたり混ぜたり押ししたりして新聞紙粘土を作る（水を加える前の新聞紙との感触の違いを感じる）
- ・感触遊び終了後、新聞紙粘土をたらいの中で平らにならして乾燥させる（次回の感触遊びで使用）

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・保育者が新聞紙を準備すると真っ先に興味を示し他子どもをきっかけに、周りの子ども達も興味を持って集まった。

・新聞紙を丸めたり手に持って振るなどそれぞれに新聞の感触を楽しんでいた。新聞紙に触れて遊んでいるうちに穴が開いた部分に手を入れて広げたり、新聞紙を使っていないいないばあをしてあそぶ姿も見られた。

・少し新聞紙に切れ目を入れると左右の手を使って破くことができました。

・新聞紙そのものの感触を十分に楽しんだ後に水を加えてふやかした。最初は近くで様子を見ている子どももいたが、保育者が触れて見せると子ども達も手に取って感触を楽しむ事が出来た。

・子どもが新聞紙粘土の入っているタライに入りたがった為、手で触れれ遊んだ後に足でも感触を楽しんだ。一部の児は足での感触を繰り返し楽しんでた。友達が楽しんでいる様子を見て他の子どもも参加し、足での感触を十分に楽しむことができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・子ども達が新聞紙に興味を持った所から新聞紙を使つての感触あそびを楽しむことにした。新聞紙を手渡したところから興味津々で触れて楽しむことができた。
- ・保育者と一緒に新聞紙を丸める、投げる、ちぎるなど様々な感触を楽しむことができた。
- ・水を加えてふやかした新聞紙粘土ではタライに入りたがる子どもがいた為、足での感触も楽しめるよう対応することで、新聞紙粘土の上で足踏みをするなどして意欲的に感触を楽しむことができた。
- ・新聞紙粘土を作ったので、十分に乾燥させたのちに乾いた新聞紙粘土に触れて遊ぶ機会も作ってきたい。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触 問い：新聞紙と新聞紙粘土の感触を楽しむ②	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	0歳児クラス（ひよこ）	人数	6名

<テーマ設定理由>

今回の問いの理由
 ・前回新聞紙と新聞紙粘土を使った感触遊びでは意欲的に触れてそれぞれの感触を楽しむことができたため、今回のテーマ設定となった。
 ・前は新聞紙と新聞紙粘土に触れて遊んだが、前回遊んだ新聞紙粘土が十分に乾燥したため、同じ新聞紙でもまた違った感触を楽しむ機会を作りたいと思った。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年6月～2026年3月
 【今回の活動】2025年8月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備するもの】
 ・新聞紙・タライ・水・乾燥させた新聞紙粘土

【環境設定】
 ・室内に広いスペースを確保する。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・新聞紙に触れて遊ぶ。（手に持つ、丸める、ちぎるなど）
- ・新聞紙に水を加えて新聞紙粘土を作って遊ぶ
- ・乾燥させた新聞紙粘土に触れて遊ぶ。（触れる、ちぎるなど）

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ・新聞紙に意欲的に触れる姿が見られた。
- ・新聞紙を手に持って揺らした時にカサカサと音がすることに気付き、音を鳴らして楽しむ姿が見られた。
- ・新聞紙を丸めて見せると真似て全身を使って丸めようとする様子が見られた。
- ・保育者がちぎった新聞紙を集めて上から散らすと全身を使って喜び姿が見られた。
- ・新聞紙をちぎろうと指でつまむが、自力では難しい様子が 見られる。保育者が端に切り込みを入れると切込み部分を指でつまんでちぎることができた。
- ・新聞紙に水を加えてこね始めると自らタライに手を入れて感触を確かめる姿が見られ、感触を楽しんでいた。（手や足で感触を楽しんでいた。）
- ・乾燥させた新聞紙粘土に触れると普通の新聞紙や濡れた新聞紙粘土とは違い、固いことが不思議だったようで意欲的に触り比べていた。
- ・乾燥した新聞紙粘土は触っているうちにぼろぼろと崩れることもあり、その様子や感触が面白かったようで集中して触れて遊んでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・手の感触あそびを想定してみたが、子ども達が足で触れたい（タライに入りたい）という反応があった為、足での感触遊びも行った。
- ・子どもによって手で感触を楽しむ子どもと足で感触を楽しむ子どもがいることに気付いた。
- ・子どもによって気に入る感触が違い、新聞紙粘土を好んで触っている子どもと乾燥した新聞紙粘土を好んで触っている子どもがいた。
- ・様々な感触に触れて遊ぶ機会を増やしたことで入園当初は何にでも警戒心を持っていた子どもが少しずつ自分から触れてみようという姿が見られるようになった。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触 問い：センサーバック・ウォーター マットの感触遊びをしよう	園名 ヒューマンアカデミー上石原保育園	クラス 0歳児クラス（ひよこ）	人数 6名
--	------------------------	--------------------	----------

<テーマ設定理由>

【問いの理由】

- ・暑い日が続き、じつくりと水遊びができないこともあるので、直接出なくても水に触れる機会を作りたかったため。
- ・様々な感触に触れる機会を作るため。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】 2025年6月～2026年3月

【今回の活動】 2025年8月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備するもの】

- ・センサーバック ・ウォーターマット

【環境の設定】

- ・保育室内に広いスペースを確保し、個々のペースで好きな感触に触れて楽しめるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

・センサーバックに触れて遊ぶ。（感触を楽しむ。中に入っているラメの動きを楽しむ。中に入っているラメを動かして楽しむ。）

・ウォーターマットに触れて楽しむ。（ウォーターマットの感触を手や足で楽しむ。）

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・最初は見慣れないものにすぐに触れずに近くで様子を見ている子どもと、興味を持ってすぐに触れてみる子どもがいる。

・センサーバックもウォーターマットも最初は手で触れて見て、次に足でも感触を確かめる子どもが多かった。

・センサーバックは両手でぎゅっぎゅっと触っているうちに中に入っているラメが動くことに気づいて意図的にラメを動かして遊びを楽しむ姿が見られた。

・ウォーターマットは触ると触れたところから中の水が波打って動くことが面白かったようで、繰り返しマットに触れて楽しむ姿が見られた。

・ウォーターマットの上に寝転ぶとウォーターマットに触れている部分ひんやりして気持ちよかったのか、ウォーターマットの上に寝転んで感触を楽しむ姿が見られた。また、センサーバックと触れた部分もひんやりすることに気づき自ら試していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・子どもによって気に入る感触が違うことに気づいた。併せて手で触れて楽しみたい子どもと足で触れて楽しみたい子どもがいることに気づいた。

・センサーバックやウォーターマットは今までの他の感触遊びとは異なり直接触れずに楽しめることもあり、他の感触遊びに比べると警戒心を持たずに楽しめたように思う。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触 問い：パン粉で感触遊びを楽しむ	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	0歳児クラス（ひよこ）	人数	6名

<テーマ設定理由>

【今回の問いの理由】
・これまでにスライム、新聞紙（新聞紙粘土）、ウォーターマットなどの感触あそびを経験したので、また違った感触に触れて遊びを楽しむ
・パン粉の感触を楽しむ。また、水を加えた時のパン粉の変化や感触の変化を体験して楽しむ。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年6月～2026年3月
【今回の活動】2025年8月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備する物】
・パン粉・水
【環境設定】
・テーブルにビニールをかける
・テーブルの下に新聞紙を敷く

4. 探究活動の実践

<活動内容>

・乾燥した状態のパン粉に触れる（つまむ、握る、撒くなど）
・パン粉に水を加えて触れる（つまむ、握る、こねるなど）
・乾燥したパン粉と水を加えたパン粉を触り比べる

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・乾燥した状態のパン粉は握ったりつまんだりすると細くなるので繰り返してつまんだり握ったりして楽しんでいました。



・手を左右に動かしたり手に持ったパン粉を撒いたりして楽しんでいました。



・初めてのことに様子見をして手を引っ込める子どもがいるかと予測したが、水を加える前のパン粉はさらさらしていることもたつてか触ることを嫌がる子どもはいなかった。



・水を加えたパン粉は感触がべたつくこともありさらさらのパン粉に比べると手を引っ込める子どももいたが、感触が気に入って集中して楽しんでいる子どももいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・水を加える前のパン粉と水を加えてからのパン粉では遊び方が違うことに気づいた。（サラサラのパン粉は撒く子どもがいたが、水を含んだパン粉を投げる子どもはいなかった。）
・さらさらになっているパン粉の方が好みの子どもの多かったようで、サラサラのパン粉の方が積極的に触れる子どもが多かった。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触 問い：お麩で感触遊びを楽しむ	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	0歳児クラス（ひよこ）	人数	6名

<テーマ設定理由>

- 【今回の問いの理由】
- ・これまでにスライム、新聞紙（新聞紙粘土）、ウォーターマット、パン粉などの感触あそびを経験したので、また違った感触に触れて遊びを楽しむ
 - ・お麩の感触を楽しむ。また、水を加えた時のお麩の変化や感触の変化を体験して楽しむ。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】 2025年6月～2026年3月
【今回の活動】 2025年9月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 【準備する物】
- ・お麩・水
- 【環境設定】
- ・テーブルにビニールをかける
 - ・テーブルの下に新聞紙を敷く

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・乾燥した状態のお麩に触れる（つまむ、握る、ちぎるなど）
- ・お麩に水を加えて触れる（つまむ、握る、こねるなど）
- ・乾燥したお麩と水を加えたお麩を触り比べる

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・最初は見慣れないものに意欲的に触れるというより保育者がお麩に触れる様子を見ていた。少し保育者の様子を観察したのちに自らお麩に手を伸ばして触れて遊び始める姿が見られた。



・ついたり握ったりちぎったりとそれぞれに感触を楽しんでいた。



・ちぎったりつぶしたりしてお麩を細かくする遊びを楽しむ中で、細かくしたお麩を保育者に繰り返し手渡すこと一緒に楽しんでいる子どももいた。



・水でふやかしたお麩を用意すると警戒しながらも指でついたり持ったりして触れる姿が見られた。中にはあまり得意な感触ではなかったのかすぐに手放す子どももいた。

・乾燥したお麩は口に入れようとする子どもがほとんどいなかったが、水でふやかして柔らかくなったお麩は口に入れようとする子どもが何人かいた。



・保育者が乾燥したお麩に水を加えようとするや以前のパン粉での感触遊びを覚えていたのか、水を入れようとするに対して抵抗の意思を示す子どもがいた。もしかしたらパン粉での感触遊びの際にパン粉に水を加えると感触が変わったことから、今回のお麩も感触が変わるかもしれないと予測をしていたかもしれない。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・最初は警戒していた子どもたちも保育者が触っているのを見て、触っても大丈夫なものとして認識して触れて遊ぶことができた。・保育者がこねて遊ぶ姿を見せることで水でふやかしたお麩に触れて遊ぶことができたが、子ども達の様子を見ていると好みの感触は乾燥しているお麩だったように思う。

・前回のパン粉での感触遊びの経験が生きて感触の変化の予測をする姿が見られたことで、発語などの表現が全てではなく、小さくても子どもなりに経験を生かして予測したり考えたりしていると感じた。・乾燥して固いお麩は口に入れようとする子どもがほとんどいなかったが、柔らかくしたお麩は口に入れようとする子どもが何人かいたことから、固いものより柔らかいものの方が食べ物として認識しやすいのかもしれないと感じた。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触 問い：小麦粉で感触遊びを楽しむ	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	0歳児クラス（ひよこ）	人数	6名

<テーマ設定理由>

【今回の問いの理由】

- ・これまでの感触遊びとは違った素材を使用し、違った感触に触れて遊びを楽しむ
- ・小麦粉の感触を楽しむ。また、水を加えた時の小麦粉の変化や感触の変化を体験して楽しむ。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年6月～2026年3月

【今回の活動】2025年9月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備する物】

- ・小麦粉・水

【環境設定】

- ・テーブルにビニールをかける
- ・テーブルの下に新聞紙を敷く
- ・汚れてもいい服に着替えて行う

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・粉状の小麦粉に触れる（つまむ、握るなど）
- ・小麦粉に水を加えて触れる（こねる、摘まむ、のばすなど）
- ・粉状の小麦粉と水を加えてこねた小麦粉を触り比べる

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・粉状の小麦粉を子どもたちの目の前に出すと「なんだろう？」という表情で触れていた。小麦粉に触れると手が白くなったことが不思議だったのか手をまじまじと見ている子どもがいた。



・粉状の小麦粉は砂などと同じで手を左右に大きく動かしてワイパーのようにすると動くので、それが面白かったのか腕を大きく動かして遊ぶ姿が見られた。

・水を加えてこねると今までの感触遊びで使用してきた素材に比べると手につきやすく、手を振っても取れないことに難色を示す子どもが何人かいた。



・水を加えてこねて柔らかい生地になった小麦粉を手渡すとついたり握ったりしながら感触を確かめる姿が見られた。

・手に水を加えた小麦粉がついている状態で両手を合わせるとベタベタすることに気づいて繰り返し両手を合わせて確かめる姿が見られた。



・生地の小麦粉を触っているうちに両手で引っ張るとのびるということに気づき、両手で持ったのばして遊ぶ姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・粉状の小麦粉に対しては触れることに抵抗感のない子どもが多かった。水を加えてこねることで水の加減によってはドロツとすることもあり、身構えている子どももいた。
- ・今までの感触遊びに使用してきた素材に比べると水を加えてこねた小麦粉は粘り気がありなかなか手から取れなかったため、戸惑いの表情を見せる子どももいた。一度経験をすると次回は戸惑う姿を見せずに楽しめる子どもが増えるので、また小麦粉での感触遊びの機会を作っていきたい。
- ・今までにいろいろな素材に触れて感触遊びをしてきたことで、感触遊びの経験が少ない時期に比べると自ら触れてみようという姿が見られるようになってきている。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触 問い：絵の具を使ってフィンガーペインティングを楽しむ	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	0歳児クラス（ひよこ）	人数	6名

<テーマ設定理由>

【今回の問いの理由】

- ・ハロウィンの製作でフィンガーペインティングを取り入れたかったため
- ・以前に絵の具を使った感触遊びを行ってから少し時間が経過し、その間に様々な感触遊びを経験したので、子どもたちの様子の変化などをみてみたいと思ったため

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】 2025年6月～2026年3月

【今回の活動】 2025年10月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】

- ・テーブルを新聞紙で多い、汚れてもいいようにする
- ・汚れてもいい服に着替え、ここのペースでフィンガーペインティングを楽しめるようにする

【準備するもの】

- ・新聞紙・指絵の具・画用紙・製作用タオル

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・絵の具に触れて感触を楽しむ（指先でつつく、手全体につけて握るなどして感触を楽しむ）
- ・手についた絵の具を画用紙につけてフィンガーペインティングを楽しむ

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・前は見慣れないものに警戒心を持って見ている子どもや触ることを嫌がる子どももいたが、いろいろな感触遊びを経験したことでどの子どもも自ら絵の具に手を伸ばして自ら触れることができた。

・フィンガーペインティングでは四者四様の取り組み方がみられた。

①絵の具を指先につけて感触を確かめたのちに画用紙絵の具をつけて楽しむ。後に指についた絵の具をちょんちょんと画用紙につける。

②指先や掌などに絵の具をつけて握ったり開いたりして感触を楽しむ。後に掌を画用紙にバシバシと当てて絵の具をつけて楽しむ。

③人差し指に絵の具をつけ、クレヨンで描いているかのように指を動かして画用紙に絵の具をつける。後に先週やった手型を思い出したのか、掌を画用紙に押し当て、反対の手で押さえる仕草が見られる。

④絵の具に指を突っ込むと絵の具が指についたことを不思議そうに眺める。感触が気に入ったようで、繰り返し自ら指に絵の具をつけて楽しんでいた。感触を楽しんだ後に画用紙に掌をバシバシと当てて絵の具をつけて楽しんでいた。バシバシしているうちに画用紙に絵の具がつかなくなると少し考えて再び手に絵の具をつけてを繰り返し楽しんでいた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・様々な感触遊びや絵の具を使って手型や足型を取ったことで少しずついろいろな感触になれ、自ら絵の具に触れることができるようになったのではないと思う。
- ・月齢が低い子ども達でも以前の経験が後日の遊びに生かされていると感じた。
- ・一括りにフィンガーペインティングといっても子ども達それぞれで取り組み方が違うと感じた。（指先や掌全体などそれぞれのやり方で感触を確かめる。）



2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：光 問い：色のついた場所に気づく	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	0歳児クラス（ひよこ）	人数	6名

<テーマ設定理由>

当園では、豊かな感性を育むための感触遊びに力を入れている。また、1歳児クラスは園庭に面しており、日当たりがよい環境である。その中で、保育室へ差し込む光に興味をもつ様子がみられた。日常的にある「光」という物に触れることで、身の回りの自然へ興味関心をもつきっかけにするためテーマ設定をした。

【今回の問いの理由】日常的に当たり前にある「光」という部分に興味関心を持ち、そこから今後の遊びに広がって行くことを願って設定した。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年6月～2026年3月

【今回の活動】2025年6月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ラミネートをかけたセロファン（赤、青、黄）

4. 探究活動の実践

<活動内容>

・ラミネートをかけたセロファンを光に当てて、そこから見える世界をのぞいてみる。

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・遊んでいる中に突然、セロファンで地面に色を映し出すと「お!？」と声をあげたり、「あ!」と指を指す姿があった。

・触ってみようと地面に手を伸ばしたり、掴もうとする姿があった。

・実際に砂を持ってみても、色は変わっておらず不思議そうな表情をしていた。

・保育者に知らせるつもりで保育者の方をみると、手に持っている物に気づき「かして」と手を伸ばす。

・自分で実際にセロファンを持ってみて、地面の色を動かして喜んでた。

・保育者がセロファンを持って子どもの顔に近づいていくと、保育者の顔の色が変わったことに気づき、笑顔になったり「自分も!」と手を伸ばしていた。

・実際に自分の顔に当てて、周りを見渡して喜んだり、様々な場所を見ていた。

・影の部分ではきれいな色がはっきりとわからない、おひさまの光があるからこういうことができることもわかるように知らせた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・渡すすぐののぞき、その色付きの世界を楽しむかと予想していたが、そんなことはなく、あちこちに色が付くことを楽しんでいたので、しばらくしてから、保育者が「こうやって見てみよう」と促した。

・色を合わせてみて、違う色ができることも知らせたが、その面白さはまだ理解していないように感じた。

・今後も引き続き、遊ぶ過程のなかで光と影の存在についてつなげていきたい。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：光 問い：色の違いに気づく②	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	1歳児クラス（りす）	人数	12名

<テーマ設定理由>

【今回の問いの理由】日常的に当たり前にある「光」という部分に興味関心を持ち、そこから今後の遊びに広がって行くことを願って設定した。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年6月～2026年3月
【今回の活動】2025年8月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ラミネートをかけたセロファン（赤、青、黄）を光が当たり、且つ床にその色が差し込む場所に貼る。
- ・できれば子どもたちの手の届く場所に貼る。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・午睡明けに突然、室内に色の付いた場所が現れる。その時の子どもたちの発見や喜び、不思議に共感していく。
- ・日中には無かった突然の床の変化に気づくよう、午睡明けに設置をする。
- ・最初は黙って様子を見守り、気づく様子ががなければ声をかけて知らせる。

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・午睡明けに少しずつツットを片付けていくと、色の付いた床に気づく子が出てきた。1人が気づくともう1人、もう1人と寄ってきて、同じことに気づく。

・好きな色があるため他事と同じ色を触ろうとすると嫌がる姿もあった。

・触ろうとすると自分の手にも色が付いていることにも気づき、不思議そうな表情をしていた。

・セロファンが貼ってあることには気づいていなかったため、保育者が「これはなんでかなあ？」と周りに目が向くように声をかける。

・セロファンが窓に貼ってあることに気づき、指を指したり、側に行き触ってみようとする、向こう側の世界の色の違いに気づいたようで、顔を近づけたり、くっつけたり「わあ～!!!」と興奮する姿があった。

・気づいたことや面白いと感じたであろうことを保育者友達に知らせようとしていた。また、共感さきると喜んでいました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・日をまたぐよりも、その日のうちに変化ができた方が楽しいだろうと考え、午睡明けにした。・気づくのに時間がかかったため、床は通っていても、以外と子どもたちの視界には入っていないんだということが分かった。・前回のことがあるから、セロファンを見たときに、高月齢児は真っ先に覗きにいっていた。・前回の2段階目として、室内にも光が入ってくることを知らせたくて、夏場に窓に貼ることを予定していたが、実際にこの夏、部屋への光の入る場所が少ししか無く（窓の下部分のみ）貼る場所に苦節した。（窓の上部は直射日光が入らないような工夫がされていた。）トラブルなども考え、できれば距離をとりつつ貼りたかったが仕方なく3枚をくっつけるようにするしかなかったため、部屋に色を付ける際は違う方法を考えても良いかもしれない。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：光 問い：明るい？暗い？	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	1歳児クラス（りす）	人数	12名

<テーマ設定理由>

【今回の問いの理由】
光と影の違いに気づくように設定した

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年6月～2026年3月
【今回の活動】2025年10月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・誘導ロープ（散歩用）
- ・ひなたと日陰を歩ける道の選択

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・散歩時、全員で歩いているときに「ひなた」と「日陰」の差を知らせていく。
- ・日向を歩いているときに「まぶしい」「あたたかい」「あつい」など子どもたちにわかりやすく太陽の光を感じるような声かけをする。
- ・その後に日陰に入った際に「さっきとどう違う？」「涼しい」「暗いね」など差がわかるような声かけや、日陰の特徴を知らせていく。

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・保育者の「おひさまどこかな？」と声かけに反応し、探す姿があった。その中で「まぶしいよ！」という子もいた。

・「おひさまのところはどう？暖かい？」という保育者の声かけに「あつい！！」という子が多かった。

・日陰に入り「ここはどう？」という声には「涼しい～」「くらい」と思ったことを口にしていた。

・その後、日向に戻るとまた「暑い」「まぶしい」と口にしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・今までにも時々、活動の際に声をかけていたため、保育者が声をかけなくても、ひなたと日陰の違いについては「あれ？」というように気づいていた。なので、ここで、全員一緒に何が違うかということと一緒に考える機会が作ることができた。
- ・日頃当たり前にある場所やものに気づくようにするための声かけの大切さを感じている。
- ・今後の戸外遊びの際にも続けていきたいと思う。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：光 問い：影ってなに？	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	1歳児クラス（りす）	人数	12名

<テーマ設定理由>

【今回の問いの理由】

- ・日常的に当たり前にある「光」という部分に興味関心を持ち、そこから今後の遊びに広がって行くことを願って。
- ・影という存在に気づいていくように設定した。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年6月～2026年3月

【今回の活動】2025年12月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・日当たりの良い場所で活動をする。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・戸外遊び時に太陽の存在を知らせる。
- ・太陽がでているときに影が出ていることを知らせる。
- ・影が自分と同じ動きをすることに気づくようかかわっていく。
- ・日頃から天気の良い日には「あたたかいね」「おひさまどこかな？」と太陽の存在を知らせていく。
- ・日陰に入った時にはそれまでとの違いに気づくような声かけをする。
- ・日向で「影」の存在に気づくような声かけをする。
- ・保育者の影を動かして見せて、同じ動きをしていることがわかるような関わりをする。

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・とても晴れている日だったので、遊んでいる最中に「おひさまがいるね、どこかな？」と声をかけ太陽の存在を知らせた。



・遊んでいるときに子どもが「あ！」と影の存在に気づいたため「どうしたの？」「これなんだろうね？」と興味もつような声かけをした。



・「影って言うんだよ」と保育者が知らせると「かげ？」と言いながら、手を動かしていた。

・側にいた子にも興味もつような声をかけをした。



・保育者が自分の影を動かして見せることで、子どもたちも動かしていた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・今まで、ことあるごとに「太陽」の存在を知らせてきた。今までにも「影」の存在も知らせてきたが、そこまで興味は持たなかった。気づいた子も高月齢児だったため、ここに来て、その結果が出てきたように感じた。
- ・一人が楽しむと、その姿に気づいた子も連なるように参加し、一緒のことをしようとするため、気づいたことを見逃さずすぐに側で気づけて良かった。
- ・今後、晴れている日にはまた、影遊びができる機会を作っていき、今回興味持たなかった子にも少しずつ面白さが伝わるように関わっていこうと思う。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：キャベツ	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	2歳児クラス	人数	15名

<テーマ設定理由>

園の周辺には多くの公園や土手などがあるため、日々の保育に戸外活動を多く取り入れ、体験を通して興味関心を広げることを強みとしている。
戸外活動中、畑でキャベツを発見し農家の方が見せてくれた。子どもが「スーパーに売ってるよね!」と興味を持ち、実際に触れてみることで更に興味が深まったためテーマとして設定した。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年7月～2026年3月
【活動のスケジュール】2025年5月～7月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・「きゃっきゃキャベツ」絵本
- ・紫キャベツ 緑キャベツ 包丁 ビニール袋 アルコール消毒
- ・いつも見ている畑のキャベツはどうやって大きくなっていったのか? 絵本で学ぶ
- ・キャベツを観察する

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・導入に絵本を使う
- ・給食で出てくるキャベツについて思い返す。
- ・キャベツを手取る(重さの体感)
- ・キャベツの断面の観察
- ・切り分けた後、観察し お昼に食べる食材の準備として親指の大きさにちぎる
- ・給食で調理されたものを食す

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・まるまる1個を手にとると ずっしりとした重みがある事が分かり、重たいね。冷たいよ。とお友達同士で話す様子があった。

・包丁で半分にした断面を見た時は、縞々だね。と驚く様子があった。

・切り分けた後 全員に手渡すと一枚一枚上手に捲る事が出来た。

・匂いを嗅いでみた?との保育者からの問いかけに 何にも匂わない。

草の匂いがする。苦い匂いもするよ。と色々な感想が飛び出した。

・キャベツは今日の給食に出る事を伝え 皆が食べやすいように口に入るよう親指の大きさに手でちぎる事を説明すると 親指を見るのではなく口をあげながら食べれる大きさを確認する姿があった。

・給食時は どこにキャベツがあるのか確認しながら食べていた。普段野菜が苦手な児童も自分でちぎった事で自らチャレンジする姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

直接手にすることで、より身近に感じられたと思う。・葉っぱが折り返っていることは絵本で分かっていたと思うがやはり、絵本と本物は別物であり、実際に一枚ずつめくりながら沢山捲れるねーと楽しみながら野菜に触れる姿を見ると、本物に触れると感動の度合いが違うことが良く分かった。・自分の口に入る大きさに干切ると説明した時に、食べてしまう児童がいるかと思ったが誰一人口に入れることは無く驚いた。・干切った物はビニールに入れて欲しいとの指示にも応じることが出来ていて、1歳児と2歳児の成長差を見ることが出来た。自分たちでちぎった野菜に興味を持ち、給食を楽しみに過ごしていた。前日に野菜の皮むきなどはやっていたが、やはり当日に食べられることは大切だと思った。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ:キャベツ	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	2歳児クラス (うさぎ)	人数	15名

<テーマ設定理由>

【今回の問い】

キャベツに興味を持ち、本物に触れ、食すところまで出来たが、観察のために使った紫キャベツが残った。色彩鮮やかなので水につけるとどうなるか？お湯につけるとどうなるか？色水遊びをした。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】 2025年7月～2026年3月
【活動のスケジュール】 2025年5月～7月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備】

- ・紫キャベツ (金曜日に使ったものを冷蔵保管) ・タライ・水
- ・煮出した後の水 (事前に準備した)

【環境設定】

- ・紫キャベツはちぎると手に色が付くことは金曜日に気づきがあったが水にも色が付くかどうか？予測をたててみる。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・朝おやつの後 紫キャベツをたらいへ ちぎりながら入れ 被るくらいの水を入れてウッドデッキに出しておく
- ・夕方おやつの後 色水の観察をする
- ・金曜日の振り返りをする。
- ・紫キャベツを触ると手に色が付いたことを思い出す。
- ・水につけると水にも色が付くか実験してみる。
- ・煮だした色と 水につけた色とを比較してみる

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

【子どもの姿・声】

・週を跨いで活動だったが、紫キャベツの振り返りを行うと、手が紫になったんだよね。草の匂いがしたんだよね。と覚えている様子があった。

・紫キャベツをちぎって 水に入れると色が変わるかどうか？実験してみようか？の言葉かけに、やってみたい！！とワクワクしている様子があった。

・先週使った紫キャベツは冷蔵庫で保管していたので 触るとヒンヤリしていて気持ちが良いね。ほら、また色が付いたよと、楽しむ姿があった。たらいの周りを囲んでちぎっていたので、お友達同士会話が弾み また、2回目という事もあり ちぎるスピードも速かった。

・ちぎり終り ウッドデッキにタライを移動してから水を入れたところ ほんのり紫色になる様子を 「もう出てるんじゃない？」 「出てないと思う」 など各自が感想を言葉にしていた。

・夕方のおやつを食べ終わったタイミングで、実験結果を公表した。

午睡中に回収した色水と、煮出しペットボトルに入れた色水を比べたところ 色の違いに気づき驚く様子があった。匂いを嗅いでみると「なんだか酸っぱいに匂いになった！」 「臭くて嫌だ」と臭いにも違いがあることが判明した。

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・週を跨いでいたが、自分たちで干切ったキャベツが給食で出てきたことをしっかりと記憶しており、みどりのきゃべつと紫のキャベツがあった事も覚えていた。
- ・紫キャベツを干切ると手に色が付いた。という子ども達の発見から色水を作る活動に結び付いた事 実験というキーワードを使ったことで わくわくしながら出来たと思う。
- ・水とお湯では 発色の違いがあった事に驚きがあった。



2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ:キャベツ	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	2歳児クラス(うさぎ)	人数	15名

<テーマ設定理由>

【今回の問い】

- ・以前、園長先生がたい肥を作っている所を見せてもらい、途中土を混ぜる手伝いをした。
- ・紫キャベツは色が抜けて白っぽくなっていたが、捨てるのは勿体ないので、たい肥づくりに活用することにした。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】 2025年7月～2026年3月

【活動のスケジュール】 2025年5月～7月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備】

- ・コンポート用バケツ・土・紫キャベツ・シャベル

【環境の設定】

以前にも たい肥作りを手伝ったことがあるので、今後の見通しを思い出しながら作業できるよう声を掛ける

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・園長と以前作ったコンポストの中を確認する
- ・これから始める土とコンポストに入っている土を比較してみる
- ・コンポストに紫キャベツを入れて混ぜ合わせる

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・園長先生と一緒にたい肥作りをやった時の振り返りをしたところ

「土のご飯なんだよね」
「フカフカの土になるんだよね！」
と覚えている園児が数名いた。

・バケツの中に白っぽくなったキャベツを入れてシャベルで混ぜると、「ザクザク音がしたね」
「また無くなっちゃうのかな？」
と前回の記憶をたどりながら混ぜる姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

食育で準備したキャベツだったが たい肥作りまで発展するとは思っていなかったが、子ども達の気づきと保育者のアイデアによって、活動が広がっていったことが楽しかった。たい肥作りについては前回もやった活動ではあったが、2回やる事で創造を膨らませながら出来たことがとても良かった。幼児クラスになると食べ残しに付いても食育として学ぶ機会があるが、乳児期にしたこの活動が芽になるといいなと思う。たい肥が完成した暁には、春にもやった赤かぶにも再チャレンジして2回やる楽しさを再度味わうこととする。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	3歳児クラス（ぱんだ）	人数	15名

<テーマ設定理由>

当園では、豊かな感性を育むために乳児期から様々な素材にふれる感触遊びに力を入れている。また、戸外活動などで自然に触れ、体験を通して興味関心を広げることを強みとしている。感触遊びは、積み重ねてきたことで幼児クラスになり新たな気付きあると感じた。また色やにおい、感触など、感じたことを言葉にすることで表現力を培ったり、見立て遊びや、ごっこ遊びをし想像力を膨らませるためテーマとして設定した。

【今回の問いの理由】 ・様々な素材の感触や変化する様子を観察する・想像力や思考力を養う

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】 2025年6月～2026年3月
 【活動スケジュール】 2025年8月～9月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・四角い箱
- ・片栗粉
- ・食紅(赤青黄)
- ・透明なカップとスプーン

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・片栗粉の粉の感触を知る
- ・水を少し入れて片栗粉粘土を作る
- ・水を更に足すと感触が変化することに気づく
- ・食紅で三原色+白の色を付け混ぜることで、他の色が作れることを知る。好きな色を作ってみる

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・まずは片栗粉に触れたり握ったり。「白くて綺麗だね」「握るとキュッキュッていうよ」「手が白くなった!!」など色々な気づきがたくさん。匂いを嗅いで「なんか臭い…」と言うお友達もいました。

・少し水を入れてコネコネすると、粘土みたいに変化。上手く丸められたかな？

・更に水を足してサラサラに。ドロっとした感触に「べちよべちよする～」 「なんか気持ち悪い…」の声。沈んでいた片栗粉に気づき握ると「溶けてくよ～。なんで？」温度や水で変化することに気がついていました

・最後は食紅で色をつけ、色の変化を楽しみます。赤黄青と好きな色を混ぜ「オレンジになった!!」「私は紫だよ!!」など色を変化させていました。中には混ぜすぎて暗い色になってしまい残念がる子もいました



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・乳児クラスにいた頃は片栗粉に触れるさえ嫌がっていた子もいたが、幼児クラスになり手だけではなく洋服や髪まで白くしながら楽しむ姿に成長を感じた。保育者が何か声掛けをしなくても、子ども達同士で気づきを共有し、その気づきを否定せず、自分もやってみよう、次はこうしてみようなど子ども達自身で遊びの幅を広げていた。
- ・色をつけると自分のカップで三原色を混ぜながら好きな色を作っていた。色が変わる不思議さに目を輝かせ、自分の好きな色ができた時にはお友達と見せ合い嬉しそうに笑顔で溢れていた。色の配分で同じ色でも濃かったり薄かったりすることにも気づき、子どもの発見する力に驚かされた。最後はアイス屋さんごっこが自然と始まり、美味しそうなアイスが並んだ。
- ・片栗粉は身近な感触遊びだがその年齢によって気づきや遊びが変わっていくとあらためて感じた

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触 泥遊び、ぬたくり遊び	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	3歳児クラス（ぱんだ）	人数	15名

<テーマ設定理由>

【今回の問いの理由】

- ・様々な素材の感触を全身で楽しむ
- ・想像力や思考力を養う

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年6月～2026年3月

【活動スケジュール】2025年8月～9月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備物】タライ、スコップ、砂遊びセット/ 絵の具、筆、ブルーシート、模造紙、着替え

【配慮事項】

- ・子ども達が飽きてしまわないよう玩具を変えたり遊びの提案をする
- ・触れるのが苦手な子には無理強いをせず、筆がある事を伝え楽しめるように遊びを工夫する
- ・使いたい色がない時に、どの色を混ぜるとできるか一緒に考える

4. 探究活動の実践

<活動内容>

2025年8月

泥あそび…水遊びから泥遊びへとつなげる 園庭で他クラスと一緒に楽しむ

2025年9月

ぬたくり遊び…合同保育にて実施。ビニールシートを敷き、全身で楽しめるようにする

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

どろんこ遊び当日、最初は「えー、どろ嫌だ～」と言っていたが、園庭で水遊びを始め、らいおん組、ぞう組のお友達が真っ黒になって遊んでいるのを見て、だんだん泥の方へ向かっていき、興味を持ち始める。

車の荷台に泥を乗せて走らせたり、水たまりになったお砂場でごっこ遊びをしたり。最後は泥のついた玩具を丁寧に洗って片付けをした。

大きな紙に絵の具を出して、筆でお絵描きをしたり、手や足で思いきりぬたくり遊び。

初めての塗たくりに少し緊張していた子どもが何人か見られたが、周囲の雰囲気やお友だちが楽しそうに遊ぶ姿を見て、少しづつ絵の具に手を伸ばし、気づけば夢中になって遊びに参加していた。

その一方で、予想以上に遊びが大胆となってしまう、足跡などの絵の具が床に散乱するほどダイナミックな活動の機会になった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・泥遊びは、必ず最初は「やらない」というため、やりたくない気持ちも受け止めるように配慮した。始まると個人差はあるものの楽しんでいった。最後には自分たちで遊んでいた道具を水で洗ったり、積極的に片付ける姿があった。

・汚れるのが苦手な子は消極的であったが、お友だちの様子を見て『やってみよう』と自分から筆を持ってお絵描きを始めていた。周りの雰囲気やお友だちの様子を見て挑戦するきっかけになったようだ。異年齢の関わりが子どもたちにとって良い刺激になっているのを改めて感じた。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：感触 乾物もどし	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	3歳児クラス（ばんだ）	人数	15名

<テーマ設定理由>

【今回の問いの理由】

- ・食育の一環として実施して五感をとおして食への興味を広げる
- ・様々な素材の感触や変化する様子を観察する

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】 2025年6月～2026年3月
【活動スケジュール】 10月食育活動 乾物戻し

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備物】

感想わかめ、お麩、お湯、水、皿

【配慮事項】

- ・子ども達の気づきに共感する。直接触れる事が苦手な子には袋に入れるなど配慮する
- ・乾燥している時と戻した時の違いに気が付く。指で触ったり、匂いを嗅いだりする

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・テーブルごとに着席する
- ・活動の流れを伝える
- ・お麩と感想わかめをわたす→ 触ったりにおいをかいだりする
- ・ぬるま湯にお麩とわかめをひたす
- ・変化した様子を観察する

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

お麩に触れると「ふわふわしてる」、「もちもちしてる」、「ぶにぶにしてる」

一人ひとりに乾燥ワカメとお麩が渡すと、匂いを嗅いだり、割ってみたりする。

「硬いね」「匂いしないよ」「パリパリしてる」など気づきを保育者や友達と伝えあう。

ぬるま湯のボールに乾物を入れ、少しずつ大きくなっていく様子を不思議そうに見守る。

ふくらんだ食材に触れてみると

「やわらかい」「もちもちしてる」と発見した喜びの様子がみえた。

ぞう組と一緒に取り組み、各テーブルで行えるものだったこともあり、意欲的に手を伸ばしたり、周りの友達の様子も見て、互いの気づきを共有しながら最後まで意欲的に参加ができていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・乾物戻しの様子に興味を持って参加していた。
- ・各テーブルで行えるものだったこともあり、子どもたちも最後まで意欲的に参加ができていた。子どもたちからのありのままの感想が聞けるよう、見守ったこともあり、上記のように様々な感想を聞くことができた。それぞれ表現する言葉に違いがある面白さを知った。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：野菜 野菜の断面はどんな形？野菜の種はどこにある？	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	4歳児クラス（ぞう）	人数	16名

<テーマ設定理由>

当園では、豊かな感性を育むために乳児期から様々な素材にふれる感触遊びに力を入れている。また、体験を通して興味関心を広げることを強みとしており、4歳児クラスより野菜を育てて観察するなどの活動を取り入れている。

4歳児クラスになり、初めて自分達で苗から野菜を育てる経験をして興味を深める。今年度はアート講師とともに保育をすることで探究的な視点をもち、栽培だけでなく葉や種なども使って、更に興味関心を広げるためにテーマとして設定した。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年7月～2026年3月
【今回の活動】2025年7月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・野菜の断面クイズに使用する用紙
- ・野菜（人参、オクラ、ピーマン、ブロッコリー等）
- ・まな板、ナイフ
- ・子ども達が野菜を観察するお皿
- ・野菜の図鑑

4. 探究活動の実践

<活動内容>

1. 導入
「みんなで野菜を育てているけど前より野菜好きになった？」「食べられる野菜は増えてきた？」
2. 野菜の断面クイズ
3. 野菜の種を見つけてみよう！
4. 振り返り

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・春から夏野菜（きゅうり・スイカ）を育てているため、野菜に対する興味が増している様子である。「保育園でお野菜育てているよね。少しお野菜が好きになった子はいるかな？」と質問すると「見るのは良いけど食べられない」という声も多く上がった。

・野菜の断面クイズを行うと、普段手を上げて発言しない子ども積極的に手をあげる姿があった。玉ねぎとピーマンは2つの切り方の図があったため、少し迷いながら答えていた。ネギの断面は見た経験がなかったのか、「桃」「お団子」「メロン」「雪だるま」といった面白い答えが続出し、友達の意見を笑うことなく「それで違うならなんだろう？」と一生懸命に考える姿が印象的であった。オクラは「星形なんだよね」と発言する子が多くおり、家庭で提供される機会が多いことを窺わせた

・ピーマン、なす、人参、オクラを容器に入れ、「種はどれかな？」と問いかけた。ピーマン、オクラは見てすぐに種がわかるため、取り分けて皿に隅に置いたり友達同士で「ほらこれだよ」と見せ合う姿があった。なすは一見、種が分かりづらく迷う子もいたが、指で果肉をかき出し種を見つける子もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

家庭で料理をしている場面を見ている子どもも多く、野菜の断面を当てることができている。野菜を苦手としている子どもが多いが、野菜には興味を持っていることが理解できた。野菜の種探しでは友達同士で相談しながら「これじゃない？」「違うよ、これだよ」と相談する姿もあり、同じ目的で活動する一体感を感じた。野菜を苦手としている子どもも多いが、いろいろな角度から野菜に触れ親しんでいければ、と考えている。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：野菜 観察した野菜でスタンプし、絵を描こう！	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	4歳児クラス（ぞう）	人数	16名

<テーマ設定理由>

【今回の設定理由】
観察した野菜を使って、いろいろな模様を作り好きな絵を描いてもらおうと思いテーマとして設定しました。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年7月～2026年3月
【今回の活動】2025年7月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・一人1枚の白い画用紙
- ・大きな模造紙2枚
- ・絵具
- ・パレット、筆
- ・観察した後の野菜（ピーマン、ブロッコリー、人参、オクラ等）

4. 探究活動の実践

<活動内容>

1. 導入
「観察した野菜を使って絵を描いてみない？」
2. 白い画用紙にスタンプする
3. 白い模造紙にスタンプする
4. 振り返り

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

以前も経験したことのある野菜スタンプだが、種を観察したあとに行うことにより一層興味を持っているように思えた。あまり触れたことがない【チンゲンサイ】を見せると「見たことある！」「ほうれん草？」と様々な声が聞こえた。例としてチンゲンサイの断面で花束を描き、クレヨンでリボンと茎を描いてみた。女の子の数人が「それ描く！それがいい」と呟いたが不思議とそれを真似して描く子は1人しかいなかった。

・ピーマン、オクラ、ニンジン、チンゲンサイを見せると次々に手に取り描き始めていた。印象的だったのが、野菜の形を生かしてポンポンと色を重ねている子が多いということだった。それぞれの形を確認しながら、その形を元に他の絵を描こうとしている子もいた。中にはピーマンの枠組みはピーマンで描き、中身をオクラで描いている子もおり、感心した。オクラの断面ではなく尖った方をペンシルのようにして描く子もおり、それを見て真似をする子も多くいた。他の子の真似をする子はおらず、自分で好きな色、形を楽しんでいる様子があった。いろいろ色を重ねて、塗りつぶしている子もいたが「きれいな色になったね」と声をかけると満足そうな表情を浮かべていた。

・画用紙一枚を描き終えた子から大きな模造紙に移動し、再びスタンプで絵を描いてもらった。模造紙になったことにより、共同作業になり、「それかわいい！」「じゃあ、ここに書いてみよう」と友達を描くものに刺激を受けながら描き進める姿が微笑ましかった。満足するまで描いた子ども達の達成感に満ちた表情が印象的だった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

今までも何度か経験している野菜スタンプだが、野菜の種探しをした後に行うことにより興味が増している様子だった。友達の絵を見て真似をすることなく、自分が好きな色形を描いていることに感心し、自分で描きたい絵があるんだなあ、と嬉しく感じた。オクラの尖った方で絵を描こうとした様子を見て、大人ではあまり思いつかないことを自然に実行できることに感心した。模造紙に絵を描く活動では、トラブルを予想したが（場所取りなど）、そういったトラブルは一切なくお互い協力して描いていたことが印象的だった。



2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：野菜 シャボン玉で野菜を描こう！	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	4歳児クラス（ぞう）	人数	16名

<テーマ設定理由>

【今回の設定理由】

野菜を苗から育て、収穫、食すという経験で野菜への興味が深まっている。手触り、色、匂いという幅広い感覚で野菜を感じることができている。以前、製作で行った「シャボン玉で色をのせる」という活動を「面白い！」「もっとしたい！」という声が多く上がっていた。野菜とシャボン玉を組み合わせる活動できないか、と考え今回のテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年7月～2026年3月

【今回の活動】2025年8月～9月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ペットボトル（保護者に用意してもらう）
- ・ペットボトルを半分に切断し、ネットで覆い輪ゴムで留めたもの
- ・模造紙（野菜の絵を描いてある）
- ・シャボン玉+絵の具+少量の水 を混ぜた液

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・以前きゅうりとスイカを栽培し食べた経験を再度話す、約束事を伝える
- ①シャボン玉を自分や友達につけない②ペットボトルの口に口をつけずにフーッと吹く③お部屋は走らない
- ・シャボン玉での色塗り
- それぞれ好きな野菜が描かれている模造紙の周りに座る。一斉にシャボン玉を作り絵を描く。
- ・振り返り

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・以前、スイカ、きゅうりを収穫して食べたことを話すと思い出したように、「そうそう、美味しかったよね」「スイカは3つだったよね」と嬉しそうに話す姿があった。続けて、製作でおこなったシャボン玉での色塗りの話をすると「またやりたいとおもってた！」「やりたくないなあ」と様々な意見が出てきた。

・ピーマン、とうもろこし、トマト、人参、玉ねぎ、なすの中から自分達で好きな野菜を選んでもらった。友達との関わりが深まっていることから野菜を選ぶというよりも、友達と一緒にものを選ぶ、という雰囲気もあったが、自分で好きな赤→トマトを選んで笑顔を見せる子もいた。

・ペットボトルの口には口をつけずにフーッと息を吹きかける約束をしっかりと守り、出てくるシャボン玉に驚き「ポコポコ出てくる」「黄色くなったよ」「とうもろこしの葉は緑だから緑グループ行ってくる」と意欲的に取り組んでいた。

・模造紙に友達と共同で描くことにより、「ここに吹いてよ」「できたよ、見てみて」とお互いに声をかけながら一つの作品を描き、他の野菜も「すごい」「緑だけで何かわからなくなってるよお！」と感想を言い合う姿もあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・一度経験した活動の幅を広げて、一つの作品を作ることが保育者として初めての経験だった。「もっとやりたかったことができた！」という満足感が子供達から感じられたので嬉しく思い、また挑戦したいと感じた。
- ・シャボン玉という材料を作するには不安があったが（ふざけて口に入れたりしないだろうか、滑って転んだりしないだろうか等）、事前に約束をしっかりとすることにより安全に活動できることを感じた。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：野菜 リポベジ！再生野菜に挑戦しよう！葉っぱがで てくるかな？！	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	4歳児クラス（ぞう）	人数	16名

<テーマ設定理由>

【今回の設定理由】

夏野菜を育てた経験から、「次に何育てる？」という声があがっていた。室内で手軽にでき、種や苗からではなく、野菜の切れ端から野菜を再生させる経験をしてもらいたいと思い設定しました

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年7月～2026年3月

【今回の活動】2025年10月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・野菜（豆苗、ねぎ、小松菜）
- ・野菜を植える容器
- ・包丁、まな板

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・導入：夏に育てたきゅうり、トマトの話をし、野菜栽培のことを思い出してもらおう。豆苗、ねぎ、小松菜を見せ、それぞれの名前、食べたことはあるか、の質問をする。それぞれの野菜は何かから育てるのか（種、苗など）の質問をする
- ・野菜を切る：保育者が子ども達の前で野菜を切り、子ども達に触ってもらおう。その際は匂い、断面の形などに着目してもらおうよう声をかける
- ・容器に野菜を設置する：代表でお当番に水を入れてもらい、保育者が援助しながら野菜を設置する。・切断した野菜からどのように野菜が育っていくか考え発表してもらおう

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・小松菜、ねぎは見たことや触れたことがある子が多くすぐに名前を言い当てていた。豆苗は二人ほど、家で同じように再生栽培をしていると答える子がいたが、「初めて見た、触れた」という子も多数いた。「とうみょう」という発語が珍しかったようで、独り言のように繰り返し覚えようしたり、「覚えた！」と嬉しそうに保育者に伝えにきていた。

・「野菜は何から育つ？」という質問に対しては「種」という回答が最も多く、「苗」という表現はでてこなかった。きゅうり、トマトを栽培したことは覚えているが「苗」という名前が記憶には残っていないようだった。

・野菜を切断した根本から何が育つか？という興味は深く、全員が食い入るように観察していたのが印象的だった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・野菜の切れ端から野菜を育てるという経験は今までにはないようで（数人は豆苗を家庭で育てていた）、興味深いと感じ、「面白そう！」という言葉もでてきていた。食す、ままではいなくても切れ端から野菜が再生されるということを目で見て観察できる機会を持てればと期待している。



2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：野菜 室内で育てている豆苗、ねぎ、小松菜の成長を 観察し、食す	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	4歳児クラス（ぞう）	人数	16名

<テーマ設定理由>

【今回の設定理由】
10月からリポベジに挑戦ということで、豆苗・ネギ・小松菜の再生栽培を行っている。成長の過程を観察し、成長した野菜を食すという経験をしてもらいたいと思い設定した

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】 2025年7月～2026年3月
【今回の活動】 2025年11月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ①栽培している豆苗、小松菜、ネギ
- ②調理さんにクラスで栽培している豆苗を調理してもらえるかを確認する

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ①日々野菜の成長を観察し、子ども達に言葉で表現してもらう
- ②全員で調理さんのところに野菜を届け、給食に提供してもらえるようお願いしに行く
- ③調理さんに、豆苗についての説明を受ける
- ④給食で実際に食し、感想を発表してもらう

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・日々豆苗・ねぎ・小松菜の成長を観察し、子ども達の言葉を聞いていた。「さっきより少し伸びてる」「小松菜の真ん中から緑の葉っぱがでてきた」「もう食べられるんじゃない?」「今日来たらすごい大きくなってたよ」等の声が聞かれた。他クラスの子も達も興味を持っているようで机の上に置いてほしい、観察したいというリクエストも多く届いた。

・調理に給食での提供が可能であることを子ども達に伝えたところ「やったー!」と嬉しそうな声があがり、全員で調理さんに「お願いします」と届けに行く姿もワクワクした感情があふれていた。

・実際に豆苗をスープに入れてもらい給食で食べた。「おいしい」「味がしない」「食べることができてうれしい」「ちょっと苦手だな」など様々な声が聞こえた。
・調理さんに豆苗の話（野菜がどうやって変化していったか）を興味深く聞いていた。少し難しい部分もあったが理解しようとしながら聞いている様子が見て取れた



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・夏野菜に引き続き、部屋での野菜栽培だったが、成長を実際に目で見て観察し食すという経験は貴重なものだと感じる。その野菜を食べられなかったとしても、料理として提供されるということに喜びを感じている様子だった。
- ・成長が早いという点で、達成感を味わうことはすぐできるが、やはり長い期間をかけて成長を見守る経験をもう一度してほしいと感じた。らいおん組になって再度夏野菜を育てると思われるので、経験を生かして栽培を楽しんでほしいと感じた。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：野菜 「葉っぱ・石・どんぐりでどんな料理ができるかな？」「レストランを開こう！」	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	4歳児クラス（ぞう）	人数	16名

<テーマ設定理由>

【今回の設定理由】

- ・自然素材に興味を持っている子が多いのでアート活動に生かしたいと考えたため
- ・子ども達が好きなごっこ遊びを取り入れてみたいと思ったため

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年7月～2026年3月
【今回の活動】2025年12月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・葉っぱ、石 ・どんぐり・枝 ・紙粘土 ・紙皿 ・紙コップ ・スプーン

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ①葉っぱや石を拾う
- ②絵本の読み聞かせ
- ③素材に触れてみる
- ④料理を作る
- ⑤レストランごっこ作った料理を並べて、レストランを開く

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・素材探しの日は枝を持ってマシヨマロを焼く真似をしたり、茂みの中をお家に見立てたりしていた。コミュニケーションをとりながら遊びが広がっていく様子が見られた。
・アート活動当日は、お散歩で集めたもののほかに様々な葉っぱやたくさんのどんぐりを用意した。製作の前に素材を1つずつ紹介すると、その種類の多さと美しさにみんなワクワクしていた。



・「触っていいよ」と声をかけると、石を並べて「お団子」、葉っぱを触って「魚!」「ちようちよ!」とすぐに見立て遊びが始まった。



・制作した料理に「クリスマスセットだよ!」「お正月セット!」などのメニュー名をつけていたことも印象的だった。子ども達が季節を感じていること、冬のイベントを楽しんでいることが伺えた。

・紅葉の葉を見せた時には子ども達が朝の会で歌っていた「真っ赤な秋」を歌い始めた。誰か一人が歌いだすと、みんながつられて声を出し、教室中が歌声で包まれた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・紙粘土は初めて触る子もいたが、柔らかく扱いやすいのでみんながワクワクと形を作っていた。中にどんぐりを入れてみたり、枝を使って模様を描いてみたり、それぞれ工夫をしていた。
- ・最初からメニューを決めている子もいれば、手を動かしながら考えている子もいた。焼き魚、餃子、マシヨマロ、パン、ブドウ、様々な料理が完成した。プレートにいくつものおかじが乗っているようなおしゃれな料理を作る子も多く、驚かされた。また、紙コップをひっくり返して飾り付けをし、ケーキにするアイデアには感心した。
- ・スプーンを準備すると、お客さん役の子は「いただきます」とスプーンを持ち、もぐもぐと食べるふりをするのが上手であった。
- ・「料理を持って帰りたい」という子が多く、自分の作ったものへの愛着や「家族にみてもらいたい」という思いを感じた。
- ・一人ひとりが自分の作りたいものに集中していたことがとてもよかった。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：野菜 野菜ってどんな色？どんな形をしているかな？ カレーライスになっちゃおう！	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	4歳児クラス（ぞう）	人数	16名

<テーマ設定理由>

【今回の設定理由】

クラスのテーマである「野菜」に興味を持ってほしいと考え「野菜ってどんな色？どんな形をしているかな？」のテーマを設定した。そしてみんなでカレーライスの材料になりきり、体を使って表現を楽しめるようにした。料理を通して食べ物への親しみを持つことができると考えた。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年7月～2026年3月
【今回の活動】2025年1月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

用意した素材

・野菜（にんじん、玉ねぎ、じゃがいも） ・カレールー
・ポリ袋 ・ボスカ ・画用紙 ・折り紙 ・画用紙 ・セロハンテープ

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ①野菜あてクイズ：保育者がヒントを出して子どもたちに何の野菜かを当ててもらいました。正解したら実際の野菜が登場する。その場で皮を剥いて、中の様子も観察する
- ②役を決めて衣装作り：みんなで「カレーライスのうた」を歌った後、にんじん・玉ねぎ・じゃがいも・お肉の中からそれぞれ好きな役を選ぶ。ポリ袋を使って自分で衣装を作る。
- ③衣装を着る：役をイメージして作った衣装を着る。画用紙を切って貼ったりボスカで塗ったり、それぞれ工夫をする。
- ④床に養生テープで円を描き、鍋に見立てる。子ども達はカレーの具になりきる。炒めたり（ぐるぐる回る）煮込んだり（じっと座る）してカレーごっこをする。

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・野菜あてクイズでは「長細いよ。馬が好きだよ」「にんじん！」「ゴロゴロしているよ。揚げるとポテトフライになるよ」「じゃがいも」とヒントを出すと子ども達は次々と答えてくれた。「玉ねぎは涙が出るからゴーグルをかけるよ」と教えてくれる子もいた。普段からよく、野菜に触れたりお手伝いをしているのが伺えた。



・制作中は子ども達は夢中でポリ袋に装飾をしていた。自分で好きな食材を決め、人数が偏った時は「じゃがいも入っていた方が美味しいなあ」と声をかけると自ら変更してくれる子もいた。



・保育者が持参した実物の野菜やお肉のサンプルからイメージを膨らませる姿もあった。「白い画用紙が欲しい」という子が何人かいたので急遽用意した。子ども達は白と赤の画用紙と組み合わせてお肉の脂身をうまく表現していた。大きなじゃがいもを描く子、作ったにんじんに顔を描く子、制作方法は様々だった。

・カレー作りが始まると「ぐつぐつ煮るよ」「ルーを入れるよ」という声かけに合わせて、鍋の中で自由に動いた。寝転がったりルーの袋を被ってみたり、料理の工程に合わせて伸び伸びと表現していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・クイズの後に「今日はみんなでカレーの材料になるよ！」という声で、子ども達はすぐに体を動かし始めた。丸くなってじゃがいもの真似をしたり、床に張り付いてルーの形を表したりしていた。自分の体を使って思いのままになりきる姿に、人が持っている「表現する」の根本が見えたように感じた。・役を決める時に「ルーとお肉は強いんだ」という子がいた。素材に対するイメージを持っていることがとても興味深かった。・ごっこ遊びを始めると、「焼かれたくない」という声が聞こえた。煮込む場面では、じっと座る子や寝たふりをしたり「いただきます」と食べる真似をすると「食べて！」とアピールする子が多かった。「カレーになる」という面白い試みだったが、みんな楽しんで役に足りてきた。・最後に「カレー以外の料理でもごっこ遊びができるよ」と言うと「ハンバーガー！」「ケーキも！」ときまざまなアイデアが出てきた。今回の活動が、子供達のやってみたい！を広げていく一歩になれば嬉しく感じる。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

テーマ：染め 紫キャベツでシャツ染めをしよう！	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	らいおん組	人数	16名

<テーマ設定理由>

当園では物の変化などに興味を持てるような活動を取り入れているためこれまでもTシャツ染めなどを行っている。「色」の興味からさらに関心が深まり、色が布や紙に写るのは子どもたちにとってワクワクしていたため。
自然の草花や食材を使いながら手で触ってみて、自分だけの色や模様ができることへの喜びや探求を深めるため自然の草花や食材を使いながら手で触ってみて、感性や想像力が身につく自分だけの色や模様ができる喜びを感じてほしいため。

2. 活動スケジュール

【年間計画】2025年7月～2026年3月

【記録日】2025年7月

- ・自然物に触れながら、五感（感覚・視覚・嗅覚など）を使う
- ・身近な野菜を使って染色体験をする

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

①染料づくり用

- ・紫キャベツ（栄養士発注） ・水 ・ 焼ミョウバン→酸性による色変化を防ぐため

②染め作業

- ・白シャツ（ご家庭にお声かけして回収） ・ 輪ゴム ・ ビー玉 ・ バケツ ・ タライ ・ 大きめの桶

4. 探究活動の実践

<活動内容>

【1日目】

①導入(観察) ・ 紫キャベツを見せて、「これで服を染めると何色になるかな？」と興味を引く②紫キャベツをちぎる・触ったり、匂いをかいだ後、ちぎる③紫キャベツ液をつくる（調理室に依頼） ・ ちぎった紫キャベツを鍋で20分ほど煮出し、液をこして冷やす

※冷やした液は2ℓのペットボトルの中へ移し匂いを嗅いでみる

【2日目】①シャツに模様をつける ・ 事前にシャツを濡らしておく と 輪ゴムなど縛りやすい ・ 輪ゴムやビー玉で縛って、絞り染めの模様をつける②焼ミョウバン液を準備 ・ 水 1 ℓ に 焼ミョウバン 10～15g を 溶かし、媒染液をつくる③染める工程 ・ 染液につける（紫キャベツ液） ・ 軽くすすぐ ・ 媒染液につける（焼ミョウバン液） ・ 色が定着 ・ 発色する様子を観察 ・ もう一度水ですすぐ ・ 乾かす（自然乾燥）④完成⑤振り返り

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

<子どもの姿・声>

- ・「紫キャベツの匂いをかいだり、触ったりして興味を持っていた。「紫キャベツちぎるの楽しい、もっと小さくちぎれるよ！」など五感を使って作業を楽しんでいた。
- ・煮出した紫キャベツの色を見て「すごい！」と感想を述べていたが、実際紫キャベツの匂いを嗅ぐと「何か変な匂い」「臭い」と言って鼻をつまんで嫌な表情を見せていた。
- ・桶の中に煮出した汁を入れシャツ染めをした。「すごい！だんだんとシャツの色が変わってきた」と変化するシャツの色に気づいていた。



<友だち同士や保育者との関わり>

- ・活動中、子どもたちは声をかけ合いながら終始積極的に取り組んでいた。
- 紫キャベツをちぎる場面では、「紫キャベツ大きい！」「何か手が紫になってきた！」と発見を共有しながらお互いの気づきや感覚を楽しんでいた。
- 模様づけでも、うまく輪ゴムが縛れない子に「貸して、やってあげる」と手を差し伸べる姿が見られ協調性を感じた。
- 保育者は、一人ひとりの興味やつぶやきを拾いながら、「手が紫色だね」「どうやってやったの？」と問いかけを通じて子どもの思考や表現を引き出せるように関わった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

子どもたちは、紫キャベツを手でちぎったり、色の変化を観察したりする中で、視覚、触覚、嗅覚を活用し、素材の特徴に自然と気づく様子が見られた。中でもちぎった紫キャベツを煮出した後、その匂いを嗅いだ子どもたちはどんな匂いなのか、ワクワクしていたが実際嗅いだら「臭い」「変な匂いがする」と手で鼻をつまんだり、顔をしかめっ面となって五感を感じていた。
普段はあまり園で見ない(知られていない)紫キャベツであったが、今度は身近な野菜で実験したらどのような反応や気づきが見られるか楽しみである。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：染め シャツ染めに挑戦！模様っておもしろい！	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	らいおん組	人数	16人

<テーマ設定理由>

【今回の設定理由】

前は紫キャベツでシャツ染めに挑戦し、色の変化を楽しんだが、模様があまりはつきり出なかった。そこで今回は市販の塗料を使って模様がしっかり出る方法にトライし、自分だけのデザインを楽しむことをねらいとした。

2. 活動スケジュール

【年間計画】2025年7月～2026年3月

【記録日】2025年8月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・大きな桶×2・塗料（水色）×3+B26・色止め・輪ゴム・ビー玉・ポリ手袋・汚れてもいい服装
・お湯・水

【環境の設定】

・子どもが自由に模様づけができるよう、輪ゴム・ビー玉の素材を十分に用意し、順番に配布した。
・塗料を使う活動の為、汚れてもいい服装で参加できるよう前日に保護者へ周知した。
・テーブルの上に大きな桶を一つ置いて子ども同士が見せ合い、刺激し合えるような配置とした。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ①前回行ったシャツ染めの話をし、今回は違う塗料で模様づけをしたらどうなるか？保育者が事前に試作したシャツを見せイメージを膨らませる。
- ②水でシャツを洗う。
- ③シャツに輪ゴムやビー玉を使ってオリジナルな模様づけを楽しむ。
- ④用意されている桶の中の塗料にシャツを入れ20分染める。
- ⑤染め液からシャツを取り出し洗い、すすぐ。
- ⑥すすいだシャツに色止め剤と水を入れ20分浸す。
- ⑦シャツを取り出し脱水をして陰干しをする。
- ⑧乾いたら完成。⑨振り返り

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

【活動中のこどもの姿】

・ビー玉を使って模様づけをしている時、「てるてる坊主みたい！」とつぶやく子がいて、周りの子も「ほんとだ！」と笑顔で答えていた。

・輪ゴムの巻き方やビー玉の位置を何度も変えながら試行錯誤している様子が見られた。

・模様づけをしながら「ぐるぐる巻いたらどうなるかな？」とできあがりを楽しみにしている声が聞こえた。

【子ども同士の関わり】

・A君：「ここをグルグルにして、こっちはビー玉を入れてみよう」

B君：「いいね、ぼくもやってみよう！」

A君：「一緒だね！」

B君：「うん！」

【保育者との関わり】

・保育者：「模様できた？見せて」

・Cさん：「全部ひとりでやったよ！」

・保育者：「すごいね！上手にできてるね」

・Cさん：「どんな風になるかな？楽しみ！」



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・活動後は完成したシャツを広げながら「すごい！」「きれい！」「ちゃんと丸になっている！」と、それぞれの出来上がりを嬉しそうに見せ合っていた。自分の作品だけでなく、友だちの模様にも関心を持ち、会話が広がっていた。染め出した色や模様に驚いたり喜んだりしながら、達成感や満足感を得たようで形になる楽しさを味わう姿が印象的だった。

・模様づけの工程では、子どもたちが試行錯誤しながら工夫を重ねる姿が多く見られた。「ビー玉を巻いたらてるてる坊主みたいになった」という発想や「うまく巻けない、もう一回やってみよう」と挑戦する意欲的な姿を間近で見られた。また友だち同士でのやり取りや教え合う場面も見られ協調性を感じた。次回もまた染め出しの計画をしており、どんな発見や探求心が見られるか楽しみである。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：染め 不思議！にじみ絵ですずむしをつくらう！	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	5歳児（らいおん組）	人数	16名

<テーマ設定理由>

【今回の設定理由】
水性ペンの色が霧吹きでにじみ広がる様子を楽しみながら、色の変化に興味を持ってもらうため。またにじみ絵をすずむしの羽に見立て製作をすることで、秋の季節感に親しみを持つと思ったから。

2. 活動スケジュール

年間スケジュール：2025年7月～2026年3月
活動スケジュール
2025年9月8日 折り紙ちぎり・はさみ製作
2025年9月10日 にじみ絵

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定




・折り紙（すずき）・色画用紙（お月見・くも・すずむしの顔・草）・新聞紙・洗濯ばさみ
【環境の設定】
・活動しやすいよう広めのテーブルを設置
・テーブルの上に新聞紙を敷く
・霧吹きは事前に練習
・にじみ絵を乾かすスペースを確保

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ①導入・秋の虫「すずむし」や「すずき」について話す。
- ②折り紙を配り、すずきは自分でちぎる。
- ③画用紙に書いてある線をなぞってはさみで切る。
- ④コーヒーフィルターに絵を描く。
- ⑤描いた絵に霧吹きで水をかける。
- ⑥乾燥させる。
- ⑦すずむしの体や羽、その他切った作品を画用紙にのりで貼る。
- ⑧振り返り
・完成したすずむしとすずきはみんなで見せ合い、色や形の違いを楽しむ。

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

<p>【活動中のこどもの姿】 ・水性ペンでコーヒーフィルターに絵を描くとき、「何を描こうかな?」「どんな色にしようかな?」と考えている時間があった。 ・描いた絵に霧吹きをかける前は「どうなるかな?」とワクワクしていた。実際かけると、「わあ!すごい!色が混ざった!」と嬉しそうな表情であった。 ・にじませた絵を乾かしている時、「乾いたらまた色が変わるかな?」と期待感を膨らませていた。</p>	
<p>【子ども同士や保育者との関わり】 ・A君 : 「見て!色にじんできたよ!」 B君 : 「本当だ!すごいね!」とお互いの作品を見せ合い、発見を共有していた。 Cさん : 「ここまだ水(霧吹き) かかっていないよ」 D君 : 「あ!」と言いながら再度霧吹きをかけていた</p>	
<p>【保育者との関わり】 ・霧吹きの使い方を再度知らせ、そばで見守る。難しい子にはさりげなく援助し自分でやった満足感を味わってもらった。 ・「どんなふうの色にじんんだ?」と一人づつに声をかけて、子どもの気づきを引き出すよう意識した。 ・「色が混ざったね」と色の変化に気づけるよう促す。</p>	

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・にじみ絵の活動では、子どもたちが色の広がりや混ざり方を見て「すごい!」「色が混ざった」と色の変化に驚いたり友だちと見せ合ったりしながら、子どもたちが楽しんで取り組んでいた。水の量やかけ方を工夫し、自分なりの表現を見つけようとする姿も見られ、過程を楽しむ大切さを改めて感じた。また思ったようににじまなかったり、反対に偶然できた模様を気に入ったりと、結果だけではなく過程を楽しんでいる様子も見られ、表現の面白さを改めて感じた。今後も自由に試せる環境づくりを大事にしていきたい。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：染め ・石ってどんな形？どんな手ざわりかな？ ・色を塗って見たらどんな石になるかな？	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	5歳（らいおん組）	人数	16名

<テーマ設定理由>

【今回の設定理由】
 自由遊びの時間、「読んで」と石をテーマにした絵本を持ってきた子がいた。「これやってみたい」と指を差した場所が石に絵を描くページであった。その為、身近な素材である石アート活動に取り入れたいと思った。

2. 活動スケジュール

年間スケジュール：2025年7月～2026年3月
 ①2025年10月21日（火）9:00～11:00 多摩川へ石探し
 ②2025年10月27日（月）9:00～11:00 石アート活動・製作

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備物】
 ・ポスカ 6箱・模造紙 (4枚) ・色画用紙 (青・水色・クリーム色・藍色・白) ・新聞紙
 【環境の設定】
 ・テーブルに汚れてもいい模造紙を敷き、ポスカが自由に取れるようグループ毎に1箱ずつ確保
 ・自分で選べるよう、5色の色画用紙をテーブルの上に用意

4. 探究活動の実践

<活動内容>

10月21日
 ①石を拾いに多摩川へ行く ②自分の袋に石を入れ園へ持ち帰る
 ③水道水で石を洗い汚れを落とす ④新聞紙の上で乾かす
 10月27日
 ①導入「いし」「いしころ」 ②石に触れてみる③石に色をつける
 ④色画用紙に好きな絵を描く（※任意） ⑤片づける⑥発表&振り返り

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

【10/21・活動中のこどもの姿】
 ・石探しでは、いろいろな形や大きさの石を興味深そうに拾って見比べていた。
 ・「ハートの形みたい」「顔みたい」と想像を膨らませていた。



【10/21・声・子ども同士や保育者との関わり】
 ・子ども：「この石、おおきいね！何かお顔に見える」
 ・子ども：「先生、この石はどう？」
 ・保育者：「本当に大きい石だねえ！」

【10/27・活動中のこどもの姿】
 ・ポスカを使ってカラフルに模様や絵を描く
 ・描きながら「こっちは目で、こっちは口」と話しながら想像を形にしていた。



【10/27・声・子ども同士や保育者との関わり】
 ・子ども：「先生見て！猫描いたよ」
 ・子ども：「恐竜だよ！だって火山が爆発するから」
 ・保育者：「かわいい猫ちゃんだね！」
 ・保育者：「どうして恐竜描いたの？石もとっても赤いね」



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

【振り返り】
 ・子どもたちは多摩川での石探しから興味を持ち、自分で選んだ石に強い愛着をもって活動に取り組んでいた。石を見ながら「ハートみたい」「お顔みたい」とイメージを広げ、描く前から想像の世界を楽しむ姿が見られた。製作活動では、描く色や形を自分で考えながら「どうしようかな？」「こっちはこうしよう」と試行錯誤しており、自分の思いを形にしていく過程をじっくり味わっていた。完成後は発表することで、友だちの作品を見て「かわいい」「おいしそう」と感想を述べ、互いの表現を認め合ういい機会であった。

【保育者の気づき】
 ・石というシンプルな素材でも、子どもたちは形や色からさまざまなイメージを広げ、自由に表現していた。一人ひとりが自分で選んだ石だからこそ、製作に対する意欲が高く、集中して活動に取り組むことができた。ポスカという描きやすい画材を使うことで、色の重なりや表現の工夫が見られた。

2025年度 探究活動 報告書



1. 活動テーマ

<テーマ>

年間テーマ：染め 「赤・青・黄の色が混ざるとどうなるの？」 「絵の具ってどんな手ざわりなのかな？」	園名	ヒューマンアカデミー上石原保育園		
	クラス	5歳（らいおん組）	人数	16名

<テーマ設定理由>

【今回の設定理由】

①水遊びのときに色水を使ったり、製作でコーヒーフィルターを染めていた。また色の混ざりに興味を持つ子が多かった為。

②手や足を使って休中で絵の具の感触を味わって欲しかった為。

2. 活動スケジュール

年間スケジュール：2025年7月～2026年3月

活動スケジュール：2025年10月～2026年3月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備物】

- ・ブルーシート3枚・模造紙3枚・割りばし 人数分（15）・食用色素（赤・青・黄）
- ・桶（大 3つ）・容器（30）・小麦粉・水・お湯・指絵の具（赤・青・黄・白）・お玉・木べら

【環境の設定】

- ・床にブルーシートを敷き、小麦粉色水や絵の具色を自由に取れるようスペースの確保
- ・ロッカーを裏返し模造紙を貼ってお絵描きスペースの確保
- ・遊んだ後のテラスでのシャワー準備

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ①導入・絵本「いろいろいのほん」
- ②小麦粉とお湯を混ぜる
- ③食紅を入れて混ぜる（赤・青・黄）
- ④自由に遊ぶ
- ⑤絵の具を各カップに入れる（赤・青・黄・白）
- ⑥自由に遊ぶ
- ⑦振り返り

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

【活動中のこどもの姿・声】

- ・小麦粉をまぜるところからみせることで、「ホットケーキみたい！」と嬉しそうに混ぜていた。「手でまぜていい？」
- 「もっとたくさん入れて！」と声上がる。

- ・好きな色を組み合わせで色の混ざりを楽しんでいた。想像していない色でも自分でやった満足感を味わっていた。
- ・徐々に遊びが大胆になると絵の具の減りが早かった。
- ・絵の具では白が人気であった。
- ・絵の具を混ぜ合わせ、「アイスクリーム」「魔法のソース」「怪獣の足」などイメージを膨らませて楽しんでいた。

【子ども同士や保育者との関わり】

- ・紫色やピンク色が欲しいと言う子がいたので、「どうやったら作れるかな？」と問いかけた。すると、子どもは色を混ぜることに挑戦し始めた。

今年度のアート探究活動の総括として、参加型の芸術参観を実施した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

小麦粉と絵の具を使ったアート活動では、普段の製作とは異なる感触に子どもたちは大喜びであった。手や足を使って大胆に表現する姿が印象的で、全身を使ってのびのびと活動に取り組んでいた。模造紙に描いた共同作品では、友だちと空間を共有しながらイメージを広げており、5歳児らしい協調性や表現力の高まりが見られた。また、手形足形を残すことへの特別感もあり、自分の存在や成長を感じられる良い機会にもなった。素材の感触や色の混ざり合いに気づいたり、試したりする中で、子どもたちの感性や探求心が豊かであることが改めて感じた。今後もさまざまな活動を取り入れていきたい。一方で、活動後のお片づけの人員が必要であった。